

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2025/06/11(水)
クラス名(年齢)	すみれ組(2歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び バブルアート

<テーマ設定理由>

絵の具と洗剤を混ぜて、泡ができる過程を見たり触れたり、それを紙に写してみる体験をしてほしいため

2. 活動スケジュール

- 1: 2人ずつ行う
- 2: 泡を作る
- 3: 泡に触ったり、噛みに写してみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵の具(赤・ピンク・青・紫)・水・食器用洗剤・ボール・ストロー
・画用紙

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・ボールに絵の具・水・洗剤を入れ、混ぜた後保育者がストローで吹いて色付きの泡を作る
- ・できた泡に触れてみる
- ・泡をモコモコに作り、その上に画用紙を置いて泡の模様を付ける

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

子どもの姿・声	写真
<p>・保育者がボールの中の絵の具をストローで吹いてみると、同じようにやってみたいという様子が見られる。シャボン玉が好きなので、同じように感じている様子である</p> <p>・できた泡に触れてみるよう促すと、指先でつつく子がほとんどである。つつくと泡がはじけて消えることが楽しくて次々とつつく姿が見られる。つついた後、指に絵の具の色が付いたことに気が付き、それを眺めたり拭こうとして机に指をこすりつけたりしている</p> <p>・ボールの中で泡を盛りだくさんに作ると「おっきい」と言って喜び姿も多い。そのボールの上に画用紙をかぶせてみるよう促すと、紙に泡の模様がついたことを不思議そうに眺めたり、紙に残った泡をつついたりしている</p> <p>・子どもAは紙に泡の模様が付くと隣のBに「見て」と見せている。Aは紙にほとんど泡が付いていない状態だったので「(泡)がないよ」とBに伝えるが、Bは小さな泡が付いていることに気が付き「あるよ」と言う。Aはその言葉で泡が付いていることに気が付き「ある」と返事をする。Bが「ポチッとしてみな」と言うとAはつついて泡を消した後Bに「ない」と言う</p>	    

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・保育者がストローで泡を作ると、同じようにやってみたい様子が見られた。洗剤が入っており、吸い込んでしまう可能性があるので吹く体験はできなかったが、もっと経験と年齢が上がればできるのではないかと思う。
- ・机上で泡に触れる体験はあまりしたことがなかったので、触って泡がはじける体験は全員が楽しんでた。画用紙に泡を写し取ったあと、画用紙についた泡をはじくことに興味を示しており、泡が消える・状態が変わるということに興味点があることが推測された

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2025/6/25(水)9:35~10:10
クラス名(年齢)	すみれ組(2歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び 片栗粉粘土

<テーマ設定理由>

片栗粉と水を混ぜることで形状が変わる様子を見たり、固まったり液状化したりする変化を見たり触ったりする体験をしてほしいため

2. 活動スケジュール

- 1：2～3人のグループ
- 2：片栗粉に水を入れて混ぜる
- 3：食紅で着色する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

片栗粉・水・ボール・食紅(赤・黄・青)

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・ボールに片栗粉を入れる
- ・水を少しずつ入れて混ぜる
- ・粉から粘土状の塊・液状化などさまざまな形状を作る
- ・食紅で着色する。色の付いた粘土を混ぜる

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
<p>・ボールに粉だけを入れた状態のものを触ってみると「サラサラ」ときめ細やかな感触を楽しんでいる。そこに少しずつ水を入れ、混ぜてみるよう促してみる。ボールを抱えて積極的に混ぜる子も多い中、ドロドロの状態に戻込みする子も少数いる。積極的な子は「もっとお水入れる」と、どんどん自分から混ぜており、「固まってきたね」と声を掛けられると「うん」「きゅ～ってなってきた」と変化に気付いている。更に水を足し、握ると固まるが置くと液状化する現象を目の前で見ると、形状が変わる不思議さに興味をもって眺める姿もある。また、液状化した状態の感触に魅入られ、すくってはボールの中に落とす、と繰り返し感触を存分に楽しむ姿もある。</p> <p>・食紅を入れて混ぜてみる。色を付けたことで触ろうとしなかった子が触ってみようとする姿が見られたので、手のひらに液状化した粘土を乗せると、やはり感触が苦手なのか渋い表情をしている。色を付けた粘土を机の上で友だちと一緒に伸ばしてつなげ、触っては「冷たい」と言ったり手のひらや指で押ししてみたりしていた。また粘土に色が付いたことで「かめ」「うつぼ」と見立てたり形を作り、友だちに見せたり渡したりする姿もあった。3色を混ぜたことで、色の変化にも気づき、最初はなかった緑ができたことで「緑どこ？」と興味を示す姿もあった</p>	

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・粉から水を入れ、塊になったり液状化したりする様子を体験し、その様子に興味を持ったり不思議に感じたりしており、形が変化していく事象に昨年度よりも気づきがあり、自分からもっとやってみようという積極性も感じた。
- ・粉の状態では大丈夫だが、ドロドロになると抵抗感を示すお子様もいた。しかし色を付けると見え方が変わるのか手を伸ばして触ってみる姿もあった。色が付くことで興味のあるものに見立て、それぞれ思い描く世界が広がっていくのを感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2025/7/16(水) 9:30~10:10
クラス名(年齢)	すみれ組(2歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び 寒天あそび

<テーマ設定理由>

寒天に触れて感触を味わったり、ちぎる・切る・型を抜くなどして形の変化を体験したり、色の違う寒天で見立て遊びなどして欲しいため

2. 活動スケジュール

- 1: 2~4人のグループ
- 2: 一人ひとりに色のついた寒天をわたす(隣同士は違う色になるように)
- 3: 粘土工具や皿、スプーンなどを使い自由に遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

粉寒天・水・バット・食紅(赤・黄・青)・粘土工具・皿・スプーン

4. 探究活動の実践内容>

- ・食紅でいろいろな寒天を作っておく
- ・活動を行うスペースには、ビニールシートを敷いておく
- ・一人ひとりに寒天を配る(同じテーブルで寒天の色が被らないようにする)
- ・寒天を見る、触れる、握る、つぶすなどして遊ぶ
- ・お皿やスプーンを使って遊ぶ、色の違うゼリーを混ぜて遊ぶ、

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
<p>・今日はこの寒天で遊んでみようか?と寒天を子どもたちに渡す。いろいろな色があるよ。どの色がいいかな?と言うと「あお!」などのが出る。「なんだ?」「さわってもいい?」寒天を指先や手のひらでなでて、感触を確かめる。「つめたーい」「にゆるにゆるしてる」、「あったかいよ」などの声が出る。</p> <p>・見ているだけの子どもに誘う呼びかけをすると、それを見た子ども同じように触って遊ぶ姿が見られる。</p> <p>・握ったりつぶしたり、粘土工具や型抜き使って切ったり型抜きをして遊ぶ。他児の模倣をしてみたり、自分なりに独創的に遊んだり、保育者に「きって」などお願いする姿もあった。</p> <p>・活動を発展させる言葉かけ(〇〇ちゃんは〇〇を作ってるね。「ゼリーみたいだね)をすると、他児が違う色の寒天を持っていることに気づき交換したり、色の違う寒天をまぜて「うわーみて!」などと言う。「いろんな色がまざってきれいだね」と言う、「もっとちょうだい」「〇〇のも見て!」と他児のものを比較して遊びだす。数人で寒天を分け合っているうちに一緒に料理を作りだし、「できたよ。どーぞ」と並べたり、食べる真似をしていた</p>	

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・すぐに寒天に触れて冷たさや柔らかさなどの感触を確かめて楽しんで遊ぶ子どももいたが、何か分からない不思議な物に戸惑って触ろうとしない子どももいた
- ・積極的に遊ぶ子どもを見て遊び出したり、保育者と一緒に触れることで安心して興味を示していったりと、一人ひとり違った関わり方で寒天の感触を楽しんでいた
- ・お皿に乗せる遊びや友だち同士でごっこ遊びをして楽しむ姿が見られた

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2025/7/31(木)
クラス名(年齢)	すみれ組(2歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び・ボディペインティング

<テーマ設定理由>

手や足、体に絵の具をつけて、絵の具の感触を楽しみながら自由に色を混ぜたり、模様と作ったりしてダイナミックな表現を楽しんで欲しいため

2. 活動スケジュール

- たくさんの色の絵の具を大量用意する
- 活動するスペース一面に模造紙を張る
- 好きな色を選び手や足に塗ってみる
- 絵の具や筆を自由に使って色や模様ペイントなどを楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

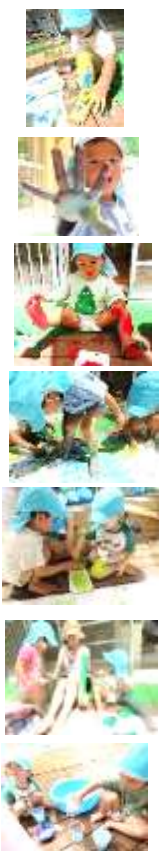
- ボディペインティング用の絵の具・筆・模造紙・トレー・水を入れたタライ・コップ・タオル・そうきんなど

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- 筆で絵の具を取って手のひらや足に塗る
- 筆の感触や絵の具の感触を楽しむ
- 模造紙に手形や足形をとって楽しむ
- 手足、筆などで模様を描いて楽しむ
- 絵の具をトレーに入れ、違う色を加えて色の変化を楽しむ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
<p>• 今日絵の具を手や足に塗って遊んでみようか？と言うと、「え？いいの？」といった表情や、ワクワクした表情を見せる。</p> <p>• 「何色がいいかな？」「足にぬってみる？」と保育者が塗ると「きゃー！」と体をくねらす子どもが。「くすぐったいね」などと気持ちを代弁していると、他児が自分もやってほしいと伝えてくる。手や足に絵の具を塗ってもらって模造紙に手形や足形をつけ「せんせい、見てー！」と楽しそうな声を出していた。</p> <p>• はじめはドキドキしていた子どもたちだが、だんだん面白くなってきて、自分で手や腕、足をパレットにして次々に塗っていく子ども、手形足形を模造紙につけその模様や色に興味を持ち更に模様を作る子どもなど個々が楽しむ姿があった</p> <p>• また「先生もぬってあげる！」と先生の腕に絵の具を塗り始めると「わたしも！」と他児もやってくる。「きれいな色だね。これは何色かな？」「この色も塗ってみる？」など色の変化にも関心を示していた</p> <p>• 汚れるのが苦手な子どもには無理強いをせず、水の入ったコップに絵の具を入れ、「これ何色かな？」「あお」「あおときいろを混ぜてみようか？」「色が変わったよ」など色水遊びに興味を示していた。それを見ていた子どもがやってきて数人で遊ぶ姿が見られた。</p>	

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- 最初は手や服が汚れることに抵抗を感じたりドキドキしていた子どもたちだが、遊び進めるうちに面白さに気づき目が輝き、どんどんダイナミックに遊ぶようになっていった。
- 数多くの色と、量、模造紙を用意したことで、一人ひとりが自由に楽しむことができ、また子どもの発想力を養うことにもつながり個性が見られた。
- とても楽しんでいたのでまだ行いたい。